

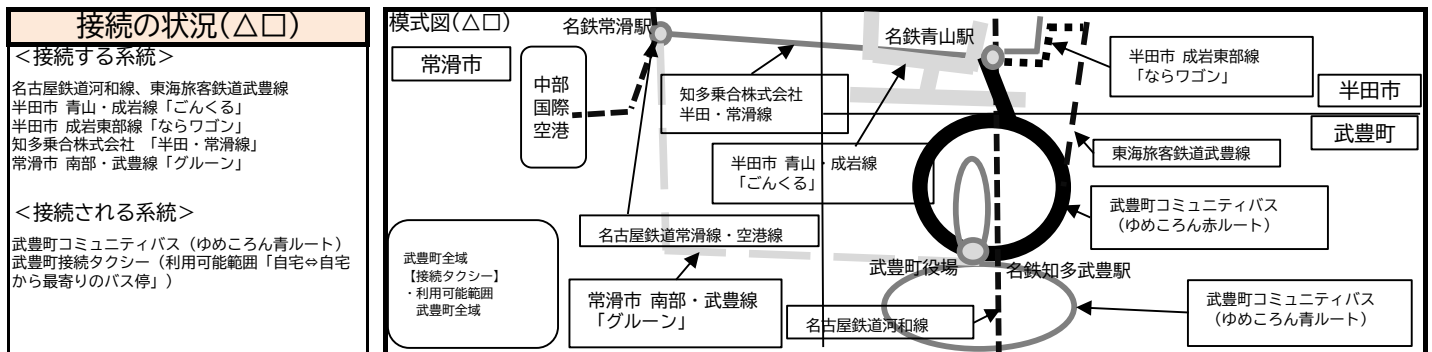
令和6年度補助系統別事業評価票（ゆめころん（赤ルート）線）

議案第1号

1. 補助系統の概要(△)

系統名	運営主体	運行事業者	区間	キロ程	運行回数	関係市町村
ゆめころん（赤ルート）	武豊町	知多乗合(株)	武豊町役場～イオン半田店～武豊町役場	12.8 km	9.0 回	半田市 武豊町 0 0
細系統				km	回	
				km	回	
				km	回	
				km	回	

※「細系統」には、補助上同一系統とみなされている系統について、系統ごとの情報を記載(系統名、区間は他の系統と違いが分かるよう記載)



2. R6年度の運行状況

事業実施の適切性		《参考数値》 主要指標の推移(△)					
計画どおり運行されたか(△)		年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度
評価	計画どおりか。そうでない場合は理由	年間利用者数【人】	39,436	39,655	41,667	50,361	66,760
A	補助対象期間の開始日から、天候等による影響以外での休休や大幅な遅延もなく、所定の事業計画どおりの運行が実施されている。	平均乗車密度（実績）	2.1	1.9	5.4	6.1	7.1
		輸送量	(計画)	21.1	36.9	18.4	16.7
			(実績)	18.4	16.7	48.6	53.6
		収支率（実績）	12.30	9.40	37.69	23.15	24.28

目標・効果達成状況		市町村の所見、理由分析、認識(□)	
評価	目標の達成状況(△)	市町村の所見、理由分析、認識(□)	
A	目標	44,500	市町村名： 半田市
	実績	66,760	市町村名： 武豊町
	達成率	150.0%	市町村名： 0
	要因	要 因	市町村名： 0
運行事業者の所見等(△)		市町村の所見、理由分析、認識(□)	
平成30年10月からの赤ルート名鉄青山駅への乗り入れ、令和元年10月から高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業により、利用の定着と利用者数の確保に繋がっている。特に、大型商業施設（イオン半田店）や名鉄青山駅の乗降者数は他の停留所に比べて多いため、特に利用者数の維持・確保に必要な停留所として位置づけられる。引き続き、利用の定着と利用者数確保のため、安全安心な運行に努める。		市町村の所見、理由分析、認識(□)	

複数市町村を跨ぐ系統としての役割		住民の利用状況(□)	
指標(市町村を跨いでの利用)	利用状況及び所見(△)	住民の利用状況(□)	
市町村を跨ぐ利用者数(△)	2,344 人/月	市町村名： 半田市	市町村名： 武豊町
全利用者に占める率	23.1 %	市町村名： 0	市町村名： 0
特記事項	令和5年10月から令和6年9月の「イオン半田店」「青山駅」停留所の乗降者数の合計		

《参考数値・情報》 その他、運行改善や利用促進に参考となる数値・情報	
運営主体【断面輸送量、競合系統合算断面輸送量、主な停留所乗降者数等】(△)	沿線市町村《沿線の状況等、すべての沿線市町村一括記載》(□)
停留所別乗降者数の実績を見ると、鉄道（名鉄知多武豊駅、名鉄青山駅、JR武豊駅）での乗降者数の割合が4分の1以上を占めており、鉄道利用のニーズが高いことがわかる。今後も毎年利用実態を確認していく。時刻表においては、周辺の電車・バスの路線図を掲載し、半田市公共交通バス路線を掲載している。利用者からは、半田市の路線と接続していることは利便性が良いという声を頂いている。	（半田市）R5.10には、武豊町とともにイオン半田店のイベントに出店し、イオンへ乗り入れていたコミュニティバス車両の展示、乗車体験会等を通して、子どもから高齢者まで幅広い世代の方にバス交通全体の利用促進を図った。バスロケーションシステム、バス情報のG.T.F.S化などの情報発信の継続や、鉄道との接続の見直し、バス停の新設など、利用者拡大にむけた取り組みを実施している。

3. R6年度の取組状況

直近の事業評価結果(△)		運営主体の取組(△)		市町村の取組(□)			
A	事業評価を踏まえた取組	・無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を継続し、利用の定着と利用者数の確保に繋がった。 ・車内環境整備として抗菌・抗ウイルスコーティング施工し、安心安全な運行に努めた。 ・町広報や公共施設での時刻表配布による情報発信により利用促進できたものとする		市町村名： 半田市	市町村名： 武豊町	市町村名： 0	市町村名： 0
改善点とした事項(△)				両市町でイベントを活用した相互情報発信による、新規バス路線を含めた路線全体の認知度の向上や高齢者運転免許自主返納促進事業やバスロケーションシステムの継続実施による利用定着・利用促進を図るとともに、青山駅での急行列車との接続の見直しや、住民要望のあったバス停の新設など、利用者拡大にむけた取り組みを実施した。	・無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を継続し、利用の定着と利用者数の確保に繋がった。 ・車内環境整備として抗菌・抗ウイルスコーティング施工し、安心安全な運行に努めた。 ・町広報や公共施設での時刻表配布による情報発信により利用促進できたものとする。		
・利用の定着と利用者数の確保のため、無料乗車券発行事業及び回数券発行事業を継続実施。 ・車内の環境整備として、抗菌・抗ウイルスコーティング施工。 ・町広報や公共施設での時刻表配布による情報発信。							
関係者の連携等(△□)		その他の取組					
両市町の停留所が位置する大型商業施設(イオン半田店)の周年祭にて共に出店し、幅広い世代の方へ利用促進のためのPRを実施した。							

4. 今後の課題

課題と認識している事項						
運営主体(△)		沿線市町村(□)				
①目標の達成状況に関する課題 目標を達成しているが、利用の定着と利用者数の確保に引き続き努める。 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・接続タクシーへの接続による交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応		市町村名： 半田市	市町村名： 武豊町	市町村名： 0	市町村名： 0	
		引き続き、利用者が安心してバス利用できる環境を整備する必要がある。 青山駅は半田市2路線、武豊町1路線、民間1路線の計4線の乗継拠点となっているため、乗り継ぎに関する情報発信を強化する必要がある。	①目標の達成状況に関する課題 目標を達成しているが、利用の定着と利用者数の確保に引き続き努める。 ③地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく各事業の適切な実施 ・交通サービスの確保維持、向上 ・接続タクシーへの接続による交通不便地域の対策 ・公共交通利用への転換の推進 ・住民団体等との協働 ・時代の変化への対応			
運行事業者(△)						
高齢者を対象とした無料乗車券発行事業及び回数券発行事業の更なる周知による利用の定着や利用者数の確保、公共交通利用への転換の推進。無料対象者以外の層(若年層)に対するPRによる利用促進。利便性向上への取り組みを継続。(令和6年11月に交通系ICカード決済端末導入)						

5. 今後の取組

課題に対応した取組、その他の利便性の向上、利用促進の取組						
取組時期	運営主体の取組(△)	市町村の取組(□)				
R6年度、R7年度に行う取組	①利用促進事業実施(無料乗車券等) ・町広報紙面を活用した「コミュニティバス(不定期)による情報発信や運転免許証の自主返納の呼び掛け、時刻表配布 ・公共交通を活用する生活スタイルへの転換の呼びかけ ・無料対象者以外の層(若年層)に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・接続する広域的な交通ネットワークの情報発信 ・利便性向上に向けた交通系ICカード決済端末導入およびバスロケーションシステムの導入 ②地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく事業の適切な実施	市町村名： 半田市	市町村名： 武豊町	市町村名： 0	市町村名： 0	
		バスロケーションシステム、バス情報のGTF S化などの情報発信の継続に取り組み、青山・成岩線車両へのICカード決済端末の導入など利便性の向上にも取り組む。	①利用促進事業実施(無料乗車券等) ・町広報紙面を活用した「コミュニティバス(不定期)による情報発信や運転免許証の自主返納の呼び掛け、時刻表配布 ・公共交通を活用する生活スタイルへの転換の呼びかけ ・無料対象者以外の層(若年層)に対するコミュニティバス利用の呼びかけ ・接続する広域的な交通ネットワークの情報発信 ・利便性向上に向けた交通系ICカード決済端末導入およびバスロケーションシステムの導入 ③地域公共交通計画(令和4年4月策定)に基づく事業の適切な実施			

注. 評価にB、Cがある系統(市町村にあっては、目標の達成状況に関しての評価がB、C)、又は平均乗車密度が3.0を下回る系統については、具体的な取組内容と収支率の目標値を記載すること。

6. 地域公共交通計画(地域公共交通網形成計画)に記載した補助系統の目標と評価

沿線市町村(□)				
目標	市町村名： 半田市	市町村名： 武豊町	市町村名： 0	市町村名： 0
自己評価	R6末に市内全路線バス利用者数1,300人/日 目標値では到達しないものの、R6半田市コミュニティバス利用者数は、日々の情報発信、利用促進に加え、低調路線の改善に取り組んだ結果、地区交通Aこんくるで108,626人、地区交通Bで23,455人と過去最高乗車人数を記録した。	〈指標〉コミュニティバスの利用者数 〈目標値〉令和7年度：72,000人/年 (4月～3月年度) 目標を達成しているが、利用の定着と利用者数の確保に引き続き努める。 コミュニティバスの総利用者数は昨年度(R04.10～R05.09)の77,094人から今年度(R05.10～R06.09)は93,837人となり、前年度及び利用者目標値を大きく上回った。赤ルート(地域間幹線系統)、青ルート(フィーダー系統)共に過去最多の乗車人数を記録している。引き続き確保維持に努め、情報発信や利用促進等の事業実施を図る。		

7. 補助系統に接続するフィーダー系統の利用・接続状況

沿線市町村(□)				
市町村名： 半田市	市町村名： 武豊町	市町村名： 0	市町村名： 0	
半田市地区交通ごんくる青山・成岩線が「青山駅」および「イオン半田店」バス停で接続している。上述のとおり、武豊町と連携した交通環境の整備や利用促進等により、R4以降は復調しており、R6にはR5の過去最高乗車人数をさらに更新した。	・高齢者への無料乗車券交付事業等により利用者数は増加しており、フィーダー系統である青ルートの令和6年7月の月利用者数は初めて3,000人を超えて過去最多となった。 令和4年10月に実施した路線の延伸に対する利用が定着し、増加したものと考えられる。			

通信欄	(この欄は関係者間で付記したいことや特記事項がある場合に利用する。県バス対策協議会事務局からの依頼事項についても記載する。)
※マクロを用いて集計しますので、セルの結合は絶対に変えないでください	